

ちびっ子鬼物語 「家族が一人増えるんだ！」の巻

※登場人物

- ① トシちゃん (笑鬼小学校の三年生です。)
- ② ユウちゃん(トシちゃんの弟で笑鬼幼稚園の年長さんです。)
- ③ トシちゃんユウちゃんのお父さん(おおらかな性格で魚釣りが大好きです。)
- ④ トシちゃんユウちゃんのお母さん(明るくて話し好きです。)
- ⑤ 近所に住む父方のお爺ちゃんお婆ちゃん
- ⑥ 隣りに住む母方のお爺ちゃんお婆ちゃん
- ⑦ 看護婦のタカさん

「今回の物語は、トシちゃんとユウちゃんに弟(妹)? が誕生するお話です。・・・さて、弟なのか?・妹なのか?・・・お楽しみに!」

▼トシちゃんユウちゃんのお母さん(以降は、お母さんと書きます。) 夕ご飯はみんなの好きなシ

ーフードカレーですよ。たくさん食べてね。

▼ユウちゃん お母さんの作るシーフードカレー美味しいもんね。いただきます。

▼トシちゃん お美味しそう。いただきます。

▼トシちゃんユウちゃんのお父さん(以降は、お父さんと書きます。) 父さんもいただきます。：

母さん二人の言つとおり本当に美味しいよ。

▼お母さん いつもながらのカレーですけれどね。お代わりしてね。モグモグモグ。美味しいと言葉が出てこない。モグモグ。どうしてこんなに美味しく作れるの?」

▼お母さん それはね。ご飯が美味しくできますように、お祈りしながら作っているからだと思うわ。

▼お父さん 母さんお代わりお願いします。僕も。僕もです。：あゝ美味しかった。ごちそうさまでした。

「その晩、お母さんはお父さんに、お腹に赤ちゃんが宿ったことを話すのでした。」

▼お父さん 母さんそれは良かった!・子どもは授かり物だからね。神様に感謝しなければね。母さん

身体に十分気をつけるんだよ。：子どもたちには明日にでも教えてあげよう。きつと喜ぶよ。：そっしつしつしつ。

「そして翌日、お父さんとお母さんは、来年の九月のはじめに赤ちゃんが生まれることを、トシちゃんとユウちゃんに話すのでした。」

▼ユウちゃん 僕に弟か妹ができるんだ。やったあ!やったあ!・

▼お母さん ユウちゃんは弟と妹のどっちが良いの?」

▼ユウちゃん 僕は絶対弟が良いな! トシ兄ちゃんが僕と遊んでくれたように、今度は僕が遊んであげるんだ!・

▼お母さん トシちゃんはどっちが良いの?」

▼トシちゃん 僕は絶対に可愛い妹が良いな! ユウちゃんのように元気いっぱいなの弟が二人もいると、兄ちゃん大変になっちゃうよ。だから妹が良いな。：：：

▼柱時計の音 ボーン・ボーン。

もう九時か。今日は遅いから、みんな布団に入って休むとしよう。はーい。はい。お母さん! これからお爺ちゃんお婆ちゃんに電話で知らせておくよ。：ハイ。お願いします。

「お父さんは近所に住むお爺ちゃんお婆ちゃんに、赤ちゃんができて家族が一人増えることを電話で話すのでした。・・・この話を聞いたお爺ちゃんお婆ちゃんは大喜びでした。・・・そして明日は日曜日。」

▼近所に住む父方のお爺ちゃんお婆ちゃん(以降は、父方のお爺ちゃんお婆ちゃんと書きます。)

「こんにちは。爺ちゃんと婆ちゃんだよ。みんないるかい。」

▼お父さん お爺ちゃんお婆ちゃんこんにちは。よく来てくれました。さあ上がってください。

▼お母さん どうぞお上がりください。

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん お邪魔するね。…三人目の子どもを授かつて本当に良かったね。…これお土産。婆ちゃんが作った酒まんじゅう。と毎日カルシウムをしっかりと取るように煮干しもたくさん持ってきたよ。

▼お父さん お爺ちゃんお婆ちゃんお土産ありがとう。お茶を上がってください。…

▼トシちゃん お爺ちゃんお婆ちゃんこんにちは。こんにちは。

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん ちよつと見ないうち二人とも背が伸びたね。ほくんとですねお爺さん。良い子だね。…長居をしたからそろそろ帰るとするか。…お母さんはくれぐれも身体に気をつけてね。それとお父さんとトシちゃんユウちゃんでお母さんを見守ってあげてね。いろいろありがとうとございませう。また来てください。ありがとございませう。

▼お父さん また来てください。また来てね。

▼トシちゃん

「翌日からお母さんは、煮干しを入れた味噌汁を作りはじめました。毎朝、家族みんなで食べるのでした。…季節の移り変わりは早く、明日はもうお正月です。」

▼お父さん みんな集まって…新年あけましておめでとう。今年もよろしくお願いします。よろしくお願ひします。お願ひします。お願ひします。お雑煮を食べたらお詣りに行こうか。お詣りに行きますよ。行こうよ。行こう！

「そして近所の中村稻荷神社でお詣り（元氣な弟が生まれるように！絶対妹ができますように！家内安全をお願ひします。家族とお爺ちゃんお婆ちゃんが幸せな一年を迎えられるように。）をするのでした。…季節はあつという間に春が過ぎ、子ども達の夏休みも終わり新学期が始まりました。」



▼お母さん タご飯ができましたよ。今日はビーフシチューとコロツケですよ。お代わりしてね。

▼ユウちゃん いただきます。…お母さんビーフシチュー美味しいね。モグモグモグ。

▼トシちゃん お美味しそう。いただきます。…コロツケもすこく美味しいよ。

▼お父さん 父さんもいただきます。…二人の言うとおり美味しい。

「夕食が終わると、お母さんはお腹が痛いと言ひ出しました。お父さんは「るの病院」に電話をし、お母さんの様子を伝えるのでした。…お父さんはお母さんを病院へ連れて行きました。お母さんは入院し、お父さんはお母さんに付き添っています。…トシちゃんとユウちゃんは近所のお爺ちゃんお婆ちゃんの家泊まることになりました。…」

▼看護婦のタカさん お父さん朝方には赤ちゃん産まれると思います。お父さんはどうされますか？…

ここまで読んで頂きありがとうございます。前編はここまで終わりです。

少し休憩しましょう。後編を楽しみにしていってください。

▼お父さん ハイ。一人目、二人目もそうしたように、今回もお母さんに付き添います。：

「お母さんはお腹が痛み出しました。・・・しだいに痛みと痛みの間隔が短くなり、大変苦しみました。お父さんは、お母さんに声をかけたり、額の汗を拭いてあげたり、手を握ったり、お母さんを励まし続けました。・・・そして九月五日午前四時二分。オギャー、オギャー、オギャー。」

▼看護婦のタカさん お母さん良く頑張ったね。
お父さん元気な男の子ですよ。見てください。

「お父さんは嬉しくて目に涙を浮かべながらその子を見つめていました。お母さんもほっとしたのか大変穏やかな顔をしているのでした。・・・そしてお父さんは、お爺ちゃんお婆ちゃんに元気な男の子が生まれたことを電話で伝えるのでした。お爺ちゃんお婆ちゃんは大変喜んでいました。」



▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん トシちゃんとユウちゃんこっちに来て。今お父さんから電話があつて、元気な男の子が生まれたつて。良かったね。

▼トシちゃん 僕は可愛い妹が良かったんだけど。でも男三兄弟も悪くないね。ユウちゃん弟の面倒みてね。たのんだよ！ わーい！僕の思ったとおり男の子だった。面倒みるよ。・・・

「三日後の日曜日は大安です。・・お爺ちゃんお婆ちゃんトシちゃんユウちゃんは、お父さんの車に乗ってお母さんと赤ちゃんに会いに「るの病院」へ向かうのでした。」

▼お父さんトシちゃんユウちゃん父方のお爺ちゃんお婆ちゃん お母さん、赤ちゃんに会いに来たよ。

▼お父さん お母さん気分はどうですか。食欲はあるかい？

▼お母さん ほつと一安心しています。ご飯は美味しく食べていますよ。

▼お父さん それを聞いて父さんも一安心だ。ご飯も二人分食べるようだよものね。

▼トシちゃん お母さん元気で良かった！ ほくと。赤ちゃん見せて。え生まれたつてお猿さんみたいだね。ほくとだ。

▼お母さん お爺ちゃんお婆ちゃんには私が入院しているあいだ、お父さんと子ども達のご飯を作っていたいたり、洗濯もしていただいたり、面倒をおかけしています。

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん こつこついう時はそうそうあることではないから、遠慮しなくて良いんだよ。トシちゃんとユウちゃんの時のように元気な子で良かった。何よりですねえ。

▼お母さん お爺ちゃんお婆ちゃんありがとうございます。

▼ユウちゃん お母さんいつ家に帰ってくるの？

▼お母さん あと四日もすれば退院できるよ。わーいわーい嬉しいな。お母さんのご飯食べられるよ。

▼お父さん ちよつと退院の日がこの子が生まれて七日目になるね。その夜は「お七夜昔から生まれてきた子どもに名前をつけて、みんなでお祝いをする日とされている。」だね。みんなでお祝いしよう。・・あまり長居をするとお母さん疲れちゃうからそろそろ帰ろう。

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん そつしましようか。お母さんゆつくりするんだよ。

▼トシちゃん お母さんの退院の日まであと四日。待ち遠しいなあー！

▼ユウちゃん 僕は弟と早く一緒に暮らしたいな！ 子守するんだ！

「そしてトシちゃんたちは、お父さんの車で「るの病院」を後にするのです。・・その日からお父さんは、三人目の子どもの名前をあれこれと考えるのでした。」

▼お父さん よし、名前決めた。三人目は心の綺麗な人となるように「心(シン)」と名付けよう。

「今日は九月十一日。午前中にお母さんが退院し自宅に戻ってきました。・・・」

▼お父さん お母さん、しばらく体調に気をつけながら子育てに専念してください。そうそう。我が家の食事はしばらくの間、お爺ちゃんとお婆ちゃんが来て、三食作ってくれるって。

▼お母さん お爺ちゃんお婆ちゃんには私が入院している間もご飯を作っていたでいて、またしばらく面倒をかけちゃいますね。

▼お父さん お母さん、「この際お爺ちゃんお婆ちゃんの厚意に甘えよう。食事の後片付けなどできることはお父さんがやるよ。それでどう。僕たちも手伝うよ！やるやる！」

▼お母さん お父さんがそこまでおっしやるのなら、…「厚意に甘えちゃいませうか。いつもお爺ちゃんとお婆ちゃんは、私たちのことを見守っていてくれてありがたいですね。

▼お父さん それからお母さん。子どもの名前は、心の綺麗な人となるように「心(シン)」と名付けようと思う。

▼お母さん 「心(シン)」。…シンちゃん。お父さん大変良い名前ですね。

▼お父さん お母さんが喜んでくれて良かった！今夜のお祝いの時、みんなに知らせるとしよう。

「お七夜のお祝いは、お母さんへのねぎらいと感謝の気持ちを込めて、お母さんの好きな料理を用意するのでした。…料理は、お赤飯、お寿司、はまぐりのお吸い物、天ぷら、野菜サラダ、鯛の尾頭付き、そしてお母さんからのリクエストで「心」の名入りのイチゴケーキです。…そして夕方。」

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん こんにちは。爺ちゃんと婆ちゃんだよ。

▼母方のお爺ちゃんお婆ちゃん こんにちは。到着しましたよ。

▼お父さん お爺ちゃんお婆ちゃん、さあどうぞ上がってください。こちらの部屋へどうぞ。

▼母方のお爺ちゃんお婆ちゃん トシちゃんウウちゃんこんにちは。久しぶりだね。お母さんと赤ちゃん元気で良かった。

▼トシちゃん お爺ちゃんお婆ちゃんこんにちは。こんにちは。

▼お父さん お爺ちゃんとお婆ちゃんが到着したので、「お七夜」のお祝いを始めます。

「お父さんは、九月五日に誕生した「心(シン)」のお七夜に両家のお爺ちゃんとお婆ちゃんが来てくれたお礼と、心が生まれて無事に一週間が経ち、これからも温かく見守ってもらえるようにお願いをしました。そして、ゆつくり食事を取りながら、子ども達の話に花を咲かせてください。と挨拶をし、乾杯するのです。乾杯！カンパイ。カンパイ。かんぱい。乾杯。」

▼お父さん では命名した理由をお話します。この子には心の綺麗な人となるように願って「心(シン)」と名付けました。…今夜は「心(シン)」の誕生をみんなで祝ってください。いただきます。いただきます。いただきます。…いただきます。…いただきます。…モグモグ。エビのお寿司も美味しいよ。モグモグ。お婆さん祝い事にはお赤飯があうね。そうすねお爺さん。お吸い物美味しいですね。…

▼父方のお爺ちゃん お婆さん男の三兄弟もいいねえ。そうすねお爺さん。

▼母方のお爺ちゃん シンちゃんは兄二人と同じに丈夫で良かった良かった。お母さんでかしたよ！

▼母方のお婆ちゃん シンちゃんの顔を見ると、きつと心の綺麗な人になりますよ。…

▼お母さん 今日の午前中に「近所の方が大勢でシンちゃんを見に来ました。皆さん口を揃えて良い子だと言っていました。(お母さんの心の声・ほんとに可愛い子で良かった。)

▼柱時計の音 ポーン…ポーン。(時計の針は夜の九時を指しています。)

▼父方のお爺ちゃんお婆ちゃん もうこんな時間か。お婆さん帰ろう。お爺さんそうしましょ。

▼母方のお爺ちゃんお婆ちゃん こっちの爺ちゃん婆ちゃんも帰るとしよう。

▼お父さん 今夜お七夜が無事に終わり、これからお宮参り、お食い初め…お祝いの行事が続くね。

▼お母さん お祝いの行事手伝いますよ。お父さんと私の二人で三人の成長を見守って行きましょ。

▼トシちゃん ん？二人でなく四人でしょう！大切なシンちゃんだから手伝います。兄ちゃん僕も！

▼お父さん 弟ができたせいか二人とも頼もしくなってきたね。そのようすねえ。